

第 15 回 IEEE キャリアデベロップメントワークショップ

三木淳央

IEEE 東京理科大学 Student Branch

1 はじめに

「IEEE キャリアデベロップメントワークショップ」は 2024 年 11 月 16 日、機械振興会館(東京都港区)において開催された。昨年度から 2 年連続、15 回目の開催となった本ワークショップは、以下の主催・共催団体により実施された。

主催

- IEEE Tokyo Section Life Members Affinity Group (LMAG-Tokyo)
- IEEE Tokyo Section Young Professionals Affinity Group (Tokyo YP)
- IEEE Tokyo Section Student Activities Committee (Tokyo SAC)
- IEEE Tokyo/Shin-etsu Joint Section Women in Engineering Affinity Group (Tokyo/Shin-etsu WIE)

共催

- IEEE 明治大学 Student Branch
- IEEE 東京農工大学 Student Branch
- IEEE 東京理科大学 Student Branch

なお、本イベントは IEEE Life Member Committee の Group Mentorship Initiative の Pilot プロジェクトとして開催された。

2 ワークショップの概要

2.1 目的

本ワークショップの対象者は、これから社会で活躍することが期待される学生や若手・中堅社会人である。グループディスカッションおよび成果発表・意見交換を通して、参加者の自己スキルに対する意識改革を促し、今後の進路設計・キャリア形成に役立てることを目的とした。

2.2 内容

ディスカッションにおけるファシリテータとして、産業界や研究・教育機関で活躍されている若手/ベテランの研究者や技術者を 4 名お招きした。各ファシリテータのご経験等に基づき、表 1 に示すようにディスカッションのテーマを設定し、各グループで活発な議論が行われた。

表 1 ファシリテータとディスカッションテーマ

グループ	ファシリテータと 所属 (敬称略) 「ディスカッションテーマ」
A	太田 直久 (慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究所) 「キャリア形成でメンターはどのように有用か、また、どうやってメンターを見つければ良いか」
B	杉江 利彦 (北海道大学 産学・地域協働推進機構) 「10 年後、そして未来の自分を描いてみよう」
C	Aman Shrestha (電機メーカー 研究開発グループ) 「Presenting research internationally」
D	吉田 高 (東京都立産業技術高等専門学校 ものづくり工学科 医療福祉工学コース) 「もしもあなたが大学(高専)教員だったなら」

なお、グループディスカッションには、模造紙と付箋を用いたブレインストーミング方式を用いた。また、活発な議論の促進と議事録作成目的として、各グループに 1 名ずつファシリテータのサポート役を配置した。ディスカッションの最後には、各グループでのディスカッションの内容と結論について発表を行った。

2.3 プログラム

本ワークショップのプログラムは以下の通りである。

- 13:30~14:00：参加者受付
- 14:00~14:15：開会挨拶・イベント説明
石垣雄太郎 (IEEE Tokyo YP)
・ Group Mentoring Initiative について
今井 元 (IEEE LMC)
- 14:15~14:45：ファシリテータの紹介
- 14:45~14:50：休憩
- 14:50~16:10：各グループに分かれてディスカッション
- 16:10~16:30：グループ内でのディスカッションまとめ
- 16:30~16:35：休憩
- 16:35~17:15：ディスカッション内容の発表
- 17:15~17:30：閉会挨拶 津田 俊隆 (IEEE JC LM Coordinator)
記念撮影
- 18:00~20:00：懇親会

3 ワークショップの当日の様子

本ワークショップの参加者は、関係者を含めて 23 名であった。内訳は以下に示す通りである。

- 学生 : 13 名 (うち, IEEE 会員 : 6 名)
 - 社会人・教員 : 10 名 (うち, IEEE 会員 : 9 名)
- また、各グループにおけるディスカッションの様子を以下にまとめ、ワークショップの様子を写真 1-11 に示す。

3.1 グループ A

<ディスカッション>

キャリア形成におけるメンターについて、グループ A は以下の流れで議論した。

- メンターの具体的な人物像
- メンターの有用な点の洗い出し
- メンターの見つけ方と関係の築き方

<発表に向けて>

各論点について発表に向けた整理を行い、以下の要点に着目して準備を行った。

- メンターは、様々な人から幅広くお話を聞ける場合と、一人の方から人生に関わるような深い話を聞ける場合がある。後者のメンターを見つけるためには、自らアクティブに動いて前者のメンターと触れ合う機会を増やすことが重要である。
- メンターは自分より経験が豊富かつ、フラットな目線で話してくれるため、自分にとって有益なアドバイスがもらえる。
- 自分が尊敬できる人と出会った際は、その人にとって自分が魅力のある人になることが重要である。

(グループ A サポート役：源関亮太(東京農工大学))
<議論・発表の様子：写真 3・4>

3.2 グループ B

<ディスカッション>

グループ B はファシリテータの杉江氏と 4 名の学生が参加し、「10 年後、そして未来の自分を描いてみよう」というテーマを中心に据えて議論した。

<ディスカッションの様子>

最初の 15 分程度は、杉江氏の追加自己紹介と各学生の自己紹介が行われた。

各学生の自己紹介では現在学んでいる内容や興味のある分野、専門領域などを話すことで、その後はお互いの背景

を理解した上で議論を進めることができた。

続いて、数十分にわたり学生は1人ずつ、5年後10年後の未来について話しながら、将来は何をやりたいのかについて付箋に自由に書いていった。

途中途中でファシリテータから疑問や方向性が示され、それに対して自由に意見を交換しながら議論していった。

議論の中では、良いことだけではなく良くない未来に関するテーマ・意見も出されたことで、より現実的なシナリオを踏まえて思考できた。

方向性として提示された一部を紹介すると、「将来は何をやりたいのか」や「10年後のキーワード」、「10年後の自分は何になっているか」、逆の考えから「10年後の自分から見て、今の自分をどう見るか」などが示された。

これらの方向性を軸に、相互的に質問し意見を話していくことで、複数の人の考えに触れながら議論を深められた。

終盤の20分程度では、各自が書き出した意見を模造紙に分類・配置し、視覚化した。

分類方法はいくつか考えられたが、横軸を時間（左は現在、中央は10年後、右側は寿命程度を目安に）、縦軸を3段階（上段を良いこと、中段をどちらでもないこと、下段を悪いこと）に設定した。

最初の自己紹介の時点で共有された各学生の将来は全く異なっていたが、最終的には分類軸に沿ってマッピングしたことで、各自が未来の自分を思い描くことができた。

また全体としては、自分の考えや他の参加者の意見を集約することで、俯瞰的に未来の自分や社会を想像し、またそのために今から10年後までに何をすべきかの道のりを検討するきっかけをつかむことができた。

<発表について>

最後の発表では、これらの議論を通じて得た結論を全体に共有し、他の参加者に未来の自分を考えるきっかけを与えることができた。

(グループBサポート役：片野坂俊樹(東京 YP, 東洋大学))
<議論・発表の様子：写真 5・6>

3.3 グループC

<ディスカッション>

海外で論文発表を行うにあたり、共通の目的として「聞き手に伝わりやすい発表」に必要な創意工夫やスキルについてアイデア出しを行い、発表した。

私たちのグループでは、高専生・大学生・大学院生・研究者といった異なる属性の方で議論が行われた。論文発表経験の有無を問わず、幅広い視点からアイデアが集まった。中でも議論の中心となった内容として、

1. 図表や1スライドごとの文字量
2. 論文発表において一人当たり割られる時間
3. 納豆(!?)

が挙げられる。1および2に関しては国内と海外との比較を行い、国内の発表では1.文字量が多く・図が少なく2.発表時間が短い、という意見が出た。一方海外の発表ではその反対と、対照的な内容だった。3に関しては、異なるアイデアが納豆のように相互に関連し、いかなる要素も重要であることを例えている…!

<まとめと発表について>

発表に向けたまとめとして、上記の相違を生み出した背景や結論を見出した。まず1.スライドの技法については海外の方は”Job Hopping”と言われる職を転々とする文化があり、幅広い職種の専門性がある。そういった理由から、文字が無くともスライドに無い情報を口頭でスラスラと話せるのではないかと結論付けた。また2.に関しては国内における学会の短さは参加者の人数や会場の都合から短くされ、十分に発表が出来ないといった

課題も明らかになった。そして全てが納豆のように絡み合いながら、まずは図表から、情報を可能なだけ要点に絞ることで、読みやすいスライドやプレゼン発表につながるということを本チームの結論として導いた。

(グループCサポート役：三木淳央(東京理科大学))
<議論・発表の様子：写真 7・8>

3.4 グループD

グループDでは、「もしもあなたが大学（高専）教員だったなら」をテーマに、ファシリテーターである高専教員の吉田氏と学生3人で議論を行った。まず、自己紹介とともに吉田氏の提案で「嘘と真実ゲーム」を実施した。このゲームは、「実は私、〇〇なんです」という形式で各自が真実2つと嘘1つを紹介し、他のメンバーが嘘を当てるというシンプルな内容である。これにより、グループ内の雰囲気緩和となり、スムーズなスタートを切ることができた。

その後、教員に対するイメージについて意見交換を行った。「研究が好き」「最先端の研究を行っている」「多くの学会に出席している」といった意見が出され、教員像についての理解を深めた。続いて、理想の教員像について話し合い、自分が教員になった場合の授業や学生との接し方についても議論した。「実践的な内容を重視し、授業内の課題や演習を多く取り入れる」「知識の活用方法まで教える」教員が理想という結論に至った。

さらに、吉田さんから実際の教員業務について詳しい説明があり、研究・学生対応・校務という3つの主要な役割があることを教わった。特に、学生からは見えにくい校務の重要性について知ることができ、大変勉強になった。

最後に、「教員になるのはアリかナシか」をテーマに意見を交わした。アリ派の意見では、「人の成長を見守ることが好き」「正しい教育のあり方を考え、それを実践したい」という考えが挙がった。一方、ナシ派の意見としては、「若いうちは社会人経験を積みたい」「年を取ると学生と話が合いにくい」といった声があった。

議論を通じて、理想の教員像と実際の教員業務とのギャップに気づくことができ、自分が教員になりたいかどうかを改めて考えるきっかけとなった。教員というキャリアを深く考えたことがなかったため、実際の教員から直接話を聞き、新たな発見が多くあったことは非常に有意義であった。

以上のディスカッションを通じて、教員という職業に対する理解が深まり、将来のキャリアについて考える良い機会となった。

(グループDサポート役：香取勇羽(明治大学))
<議論・発表の様子：写真 9・10>

3.5 (参考資料)当日の写真について

当日のワークショップの様子を以下に示す。



写真1 開会のご挨拶



写真4 発表の様子(A班)



写真2 グループディスカッションの様子



写真5 議論の様子(B班)



写真3 議論の様子(A班)



写真6 発表の様子(B班)



写真 7 議論の様子(C班)



写真 10 発表の様子(D班)



写真 8 発表の様子(C班)



写真 11 閉会のご挨拶



写真 9 議論の様子(D班)

4 参加者アンケート

本ワークショップにおける参加者アンケートの結果を以下に示す。

4.1 回答者について

図 1 にアンケート回答者の内訳を示す。本アンケートの回答者は 19 名であった。

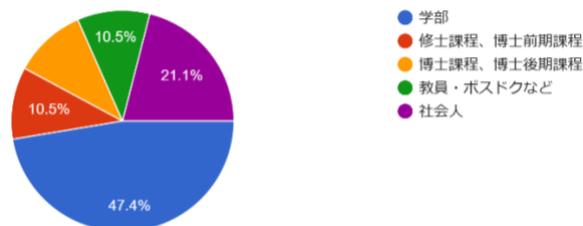


図 1 アンケート回答者内訳

4.2 本ワークショップについて

本ワークショップ全体を通じた満足度を 1~5 で回答いただき (5 が最も満足度が高い), その理由についても記入いただいた。満足度については図 2 の通りで, 74% が 5 と高い満足度であった。その具体的な理由としては,

- みなさんと楽しくディスカッションも出来ましたし, 将来について考えさせられる良い機会になりました。他大学との人との交流もなかなかできな

いので、とても良い経験だと思いました。

- 初めて会った方々と10年後のキャリアについて考えられたから、ファシリテータとして参加してくださった先生の仕事の経験はとても参考になる話が多かったです。とくに技術的な専門的な話の参考に、という意味合いではなく、それよりも人生における戦略や生き方そのものに対する考えが参考になりました。また、その話をもとに他の参加者とキャリアについて考えられたからです。
- 多様な観点からディスカッションによって成長につながりそうな深みのある話ができただから。
- ディスカッションを通し、お話しする機会がなかなかない先生方と、忌憚なく意見を交換することができたため。

といったものが挙がり(一部抜粋)、普段会話する機会がない多様な人々とキャリアに関する様々なディスカッションを行って大変有意義だったことが伺える。

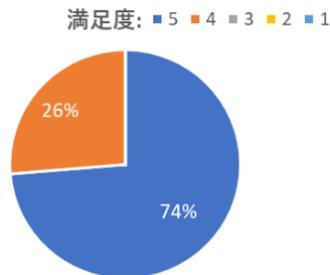


図2 イベント全体を通した満足度について

4.3 今後の企画について

今回のキャリアデベロップメントワークショップでは、ベテランと若手のファシリテータをお招きした。今後もこのような属性のIEEE会員との交流の機会を設ける場合、どのような機会に興味があるか、どのような形式で交流したいかを確認した。

図3、図4にシニア会員と若手会員との交流について、どのような機会に興味があるかそれぞれを示す。シニア会員との交流については、「キャリアの相談や助言をもらえる機会」に対して興味があるという回答が比較的多く、若手会員との交流については、「議論や質問する機会」、「インフォーマルな対話の機会」といった交流に関心が高いことが確認された。

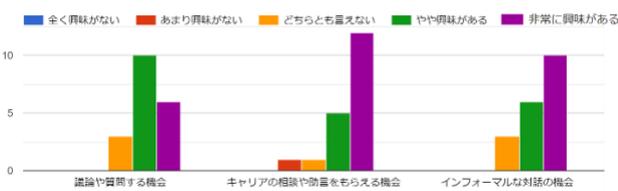


図3 Life Member (シニア会員) との交流の機会について

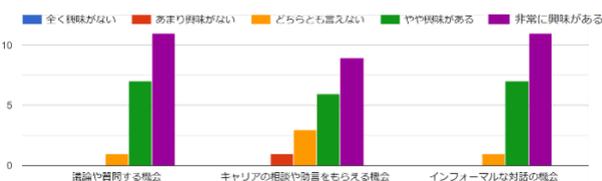


図4 YP (若手会員) との交流の機会について

また、図5に希望する交流形式の回答結果を示す。「少人数での座談会」や「懇親会での交流」への希望が多いことが確認された。

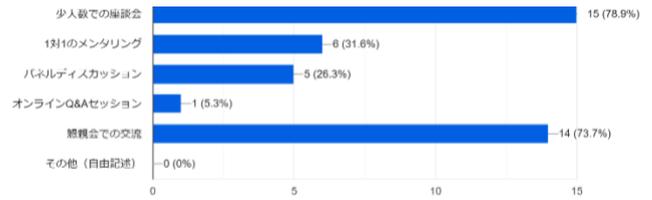


図5 希望する交流形式

これらの意見を参考に今後のイベントを検討していきたい。

5 まとめ

第15回目となるキャリアデベロップメントワークショップでは、4つのグループでディスカッションが行われた。各グループにおいて時間を少し延長するほど活発な議論・情報交換が進んだことで、自身の意識改革や進路設計に役立てることに繋がり、参加者から高い評価を得た。参加者からの意見を踏まえて、今後もより質の高いディスカッションの場と交流の機会を提供したい。本ワークショップにて、学生や若手技術者が自身のキャリア構築を考えるきっかけとなったのであれば幸いである。

謝辞

本ワークショップにおいて、貴重なお休みのお時間を割いてファシリテータとしてご出席いただいた、太田直久様、杉江利彦様、Aman Shrestha様、吉田嵩様に、心より感謝申し上げます。また、本ワークショップの運営に携わっていただいたIEEE関係者の皆様にも、厚く御礼申し上げます。



写真12 閉会挨拶後の集合写真